

わたしたちの

飛騨一之宮



土地と気候

とちときこう



飛騨一之宮地域は、日本列島の中央部、日本の屋根とも呼ばれる3,000メートル級の高い山がそびえる飛騨山脈をのぞむ面積52.17平方キロメートルの地域です。気候は内陸性気候で、夏と冬の温度差が大きく、日中は暑く、朝夕は涼しいという特徴があります。春と秋には、夜の気温がひどく下がり、霜のおりることもあります。

飛騨一之宮の生い立ち

ひだいちのみやのおいだち



数千年前、遠く海辺から山の幸を求めひたすら神通川をさかのぼってきた縄文人が、ついにたどりついた地がこの分水嶺である位山のふもとでした。人々は亀ヶ平の丘に小さな村を作りました。さらに数万年前、旧石器時代人が姿をあらわしたころ、この一之宮はすべて湖の底でした。お旅山は島のように水面に浮かんでいたと考えられています。



動画：飛騨一之宮の今と昔(1) (インタビュー「山腰曠氏」)

6:12min



岐阜県高山市一之宮町の「名前の由来」「今も受け継がれている伝統文化」「昔と変わらず大切にしているもの」「今と昔で一番変わったこと」「今と昔の町の様子」について学べます。これは山腰曠氏(宮村史著者)にインタビューしたものです。



動画：飛騨一之宮の今と昔(2) (インタビュー「山腰曠氏」)

14:26min



岐阜県高山市一之宮町の「他の地域にはない特徴」「一之宮に住む人の名字や町の地名の特徴」「一之宮の郷土料理」について学べます。これは山腰曠氏にインタビューしたものです。後半は、山腰曠氏と森瀬一幸氏(岐阜女子大学教授)との対談になっています。

URL http://hkl.gijodai.ac.jp/material_ljyugyo.html